

JAL闘争を支える京都の会News No. 69

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

12・12 京都市京セラ美術館前 JAL不当解雇撤回宣伝行動 原告団「必ず職場に戻る」

12月12日、「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、京都市京セラ美術館前で、この場所では4回目の「JAL 165名の不当解雇撤回をめざす抗議宣伝行動」がおこなわれました。寒さとコロナ禍で人通りが少ないのではないかと心配されましたが、たまたま、すぐ近くの公園でフリーマーケットが開かれており、多くの人に注目してもらえました。30分くらい立ち止まってこちらの訴えを聞いていた方もおられました。

抗議宣伝行動には、客乗原告団をはじめ、反原発を闘う「若狭に原発を考える会」、京丹後の米軍Xバンドレーダー基地撤去を闘う仲間、ユニオンネットワーク・京都に結集する労働組合の皆さん、9条ネット・滋賀、憲法を生かす京都の会などから参加していただきました。



駒井・JAL闘争を支える京都の会事務局長は「12月4日にJAL機の左エンジンに大きなトラブルが起こった。幸い那覇空港に緊急着陸し、けが人はでなかったが、機体の点検が不十分でこのような事故が起こったのであれば大問題である。客室乗務員は冷静に対処したと聞いている。このような時にベテランの乗務員が必要である。」と訴えました。同じく会員の稲村守さんは「この京都市京セラ美術館では、リニューアルオープンにあたって労働者16人がサービス残業を行って

京都市人事委員会からは是正勧告を受けた。中には時間外の労働時間が月 100 時間を超えていたケースもあったという。かつて山科に本社があった時代、京セウでも夜遅くまで電気がつきサービス残業がおこなわれていたと聞いているが、サービス残業はなくさなければならない。」と訴えました。11月23日から12月9日までの「老朽原発うごかすな！リレーデモ」を成功裡にやりきった「若狭の原発を考える会」共同代表の木原壯林さんは「JAL機のエンジン破損の写真を見ると金属疲労が原因ではないかと思う。これは老朽原発も同じこと。老朽原発の再稼働を止め



よう。」と発言し、連帯労組関生支部の仲間はこの間の関生支部に対する弾圧とそれを許さない運動の状況について述べ、共に闘っていこうと訴えました。きょうとユニオンの仲間は「京セウはこの美術館の命名権を50億円で買ったが、その50億円は労働者が働いて儲けた金である。その50億円をなぜ労働者のために使わないのか。」と怒りのアピールをおこないました。



客乗原告団のKさんは「飛行機の部品を地上へ落とすのはあってはならないこと。飛行機の燃料代節約のために台風の中を突き切ったり、客室乗務員が販売目標のある機内販売に気をとられて飛行機が着陸したのに気が付かなかったことなど、安全がないがしろにされている。解雇されてから10年経つが、必ず職場に戻る。



今後もご支援をお願いしたい。」と力強いアピールをおこないました。最後に駒井・京都の会事務局長が「関生の場合もそうであるが、規則を守れ、安全を守れというモノという労働者を会社にとっては排除したかったのだと思う。しかし、そういう労働者こそ職場に戻さなければならない。労働者は団結して闘おう。」とまとめをおこない行動を終えました。

